

ふれあいボランティア活動 感想文集



令和3年度



認定NPO法人

さわやか青少年センター

ふれあいボランティアパスポート事業

令和3年度ふれあいボランティア活動感想文集 発行にあたって

さわやか青少年センター（以下SSCという）は、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する認定NPO法人です。

SSCでは、地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（当センターが提唱する「ボランティア体験学習」の中で人々とふれあって行うボランティア活動のこと）は、青少年が『人間力』を育むために最適な取り組みの一つであると考えています。

その児童生徒の「ボランティア体験学習」のきっかけ（動機付け）を提供し、支援するツールとして、SSCでは「ふれあいボランティアパスポート（以下、FVPという）」を学校や団体に無償で提供しています。

「ふれあいボランティア活動感想文」（以下、感想文という）の募集は、児童生徒の皆さんに1年を通じてFVPを活用した「ボランティア体験学習」に取り組んだ後に、感想文を書くことでその活動を振り返り、自らの学びや成長、今後に向けての意思を確認する機会とさせていただくことを目的として実施しています。当事業は、今年度で10年目を迎えました。

この感想文集には、受賞者の皆さんがそれぞれに、気づき、考え、行動する姿や周りの人々との交流や思いがいきいきと描かれています。

この感想文集を、多くの方々には是非お読みいただき、「ボランティア体験学習」が子どもたちにとって成長するうえで貴重な機会であること、青少年期に必要なものであることを知っていただきたいと思います。

令和3年度は、一昨年より始まったコロナ禍が未だ終息せず、学校教育においては様々な体験学習初め、行事や活動が制限されたり、中止を余儀なくされたりと、児童生徒の皆さんには学習が困難な状況が続いています。

感想文の募集は、昨年に引き続き、このような状況の下での募集となりましたが、10校1団体から420点の児童生徒の皆さんの感想文をお寄せいただきました。FVP参加校・団体の皆様、そして、コロナ禍の中で、創意工夫をこらして「ボランティア体験学習」に取り組み、感想文をご応募いただいた児童生徒の皆様は心より感謝申し上げます。

あわせて、FVP参加校、参加団体の教員、指導者の皆様には、保護者や地域の協力者の方々、他の学校、団体の皆様にもFVPをご紹介いただきまして、FVPを活用した「ボランティア体験学習」の輪を広げていただければ幸いです。

それでは、令和3年度の感想文、および選考委員の講評をお読みいただきたいと思います。

令和4年3月1日

認定NPO法人さわやか青少年センター

理事長 有馬 正史

ふれあいボランティアパスポート参加校リスト（巻末参照）

◎ホームページにも参加校、感想文集をご紹介します。ダウンロードできます。（URL：<http://www.sec-tpo.or.jp>）

「ふれあいボランティア感想文」

応募総数420点（小学校7校・1団体184点、中学校2校
185点、高校2校51点）

○受賞者

【ふれあいボランティア活動大賞】（1人）

東京都小平市立小平第五中学校1年

三森 結太さん
みつもり ゆうた

【小学生賞】（7人）

鹿児島県南九州市立中福良小学校2年

西垂水 颯亮さん
にしたるみず そうすけ

鹿児島県南九州市立中福良小学校2年

古田 みのりさん
ふるた

福岡県大牟田市立中友小学校4年

成清 結菜さん
なりきよ ゆな

千葉県栄町立安食小学校5年

新垣 凜さん
あらがき りん

福岡県大牟田市立駛馬小学校5年

猿渡 結月さん
さるわたり ゆづき

福岡県大牟田市立駛馬小学校5年

藤山 諦人さん
ふじやま あきと

福岡県大牟田市立駛馬小学校6年

荒尾 璃翔さん
あらお りひと

【中学生賞】（5人）

東京都小平市立小平第五中学校1年

大井 みのりさん
おおい

東京都小平市立小平第五中学校1年

川越 葵生さん
かわごえ あおい

東京都小平市立小平第五中学校1年

酒井 心実さん
さかい ここみ

東京都小平市立小平第五中学校1年

菅野 結人さん
すがの ゆうと

山形県山形市立第一中学校2年

羽角 彩香さん
はすみ さやか

【高校生賞】（3人）

東京都立稔ヶ丘高等学校2年

五十嵐 匠海さん
いがらし たくみ

東京都立稔ヶ丘高等学校3年

関口 鈴さん
せきぐち すず

東京都立稔ヶ丘高等学校3年

玉上 菜奈さん
たまがみ なな

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

公益財団法人八王子学園都市文化ふれあい財団
理事長、公益社団法人全国公民会連合会理事、
アナウンサー、エッセイスト 村松 真貴子氏

選考委員

NPO法人子育て広場全国連絡協議会

理事長 奥山 千鶴子氏

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰氏

元日本教育新聞社取締役編集局長、

公益財団法人理想教育財団理事 矢吹 正徳氏

講評

◆ふれあいボランティア活動感想文選考委員長

ふれあいボランティア活動が広げる世界

公益財団法人八王子学園都市文化ふれあい財団
理事長、公益社団法人全国公民会連合会理事、

アナウンサー、エッセイスト 村松 真貴子

長引くコロナ禍、学校生活でも窮屈な思いを強いられる
ている子ども達が、ボランティア活動をすることで、多
くの学びを得たことが伝わってきました。高齢者は怖い

と思っていたのに、話してみると物知りだったり優し
かったり。保育園児にせがまれ絵本の読み聞かせをしたら、
いつも読んでいる漫画と違い、新鮮な感動を覚えたとい
うのにはクスツとしました。異世代との交流には、さま
ざまな気づきがありますね。

ボランティアを始める動機は何でもいいのです。友達
と一緒に楽しそうだと水まきをすることにした三森
さん、萎れている花に気づき罪悪感に襲われ、花を観察
するようになり、水やりに対する意識が変わったと書か
れています。花や地域のことに関心を持つきっかけにな
りました。地域のお年寄りが花の手入れをしているから
花が咲き、落ち葉を片付けてくれる人がいるから道がき
れいになるのですね。

募金活動や子ども食堂に参加したことが、地域社会や
世界へ目を向けるきっかけになり、自分の目標や仕事へ
とつながっていくこともあります。誰かの役に立ち喜ん
でもらえることが、自分にとっても嬉しいことだとわか
ると、ボランティアへの意欲が深まります。ふれあいボ
ランティア活動は、人と関わりあって共に生きていくこ
との喜びを感じ、自分の可能性を広げる力を持っている
のです。今後も多くの子どもたちがボランティア活動に
参加し、世界を広げていくことを期待します。

◆選考委員

ボランティアは新しい自分の発見

NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事長

奥山 千鶴子

ボランティアとは、新しい自分を発見することだと皆さんに教えてもらいました。作文のタイトルの付け方にも感心しました。「ぼくと草の五分間」「さすが五年生」「良い気持ち・良い気分」「ボランティアで成長した私」「ひまわりに背中を押されて」「いがらし先生」「ボランティアと私」など、ボランティアに出会い、向き合った自分、自らの行動や周りからのほげましによる自分の気持ちの変化、成長できた私の発見が表現されています。新しい自分の発見は、「もつとがんばろう」という気持ちをよくもく広げたり、「適当にやっていた心のもやもやをすっきりさせたり」「何ともいえない幸せな気分をもたらす」もののようにです。小学生の作品からは、素直な気持ちの表現が数多くありました。

中学生や高校生の作品では、雪が降った日の自分の行動が地域を人の協力を引き出したこと、落ち葉はきが不特定多数の人たちのための利他的な行為であること、水やりボランティアで花が枯れてしまいそうになり改めて真剣に向き合うようになったこと、どんな境遇であつてもボランティアが支えになることなど深い考察が加えら

れていました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、ボランティア活動も難しい時期があつたと思います。でも、お年寄りと話してみても初めてわかることがあるように、また相手の反応をみてボランティアガイドのやり方を見直していくことになったように、やはりリアルな活動のなかに「心を動かすもの」がひそんでいるようです。心が動かされることで、さらなる行動につながり、ボランティアの原動力になつていくように感じました。

応募された皆様、ありがとうございました。是非、これからもボランティアを通して、まだ知らない新しい自分を発見できたらいいですね。

一歩踏み出す価値

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰

ふれあいボランティア活動の感想文を読ませていただきました。全国でたくさんの中高校生が様々なボランティア活動をされていることに胸が熱くなりました。

皆さんがボランティア活動を行い、誰かが笑顔になる喜びに気付いている姿が印象的でした。たくさんの方たちが動いている様子が文章からとても伝わってきました。さらに素晴らしいなど感じたのは、皆さんが活動を通

じて様々な発見をしていることです。世界の現状、地域の資源、高齢者の姿、保育園の子どもたち、植物の季節変化、など本当にたくさんの気づきに溢れていました。そのような発見は、皆さんが一步踏み出して活動したことで得られたのだと思います。

新しいことを始めるのは常に怖さもありますが、必ず発見があります。ですので、これからの人生においてもぜひチャレンジしてみてください。何かを変えたり始めたりすることは勇気が必要ですが、きっと新しい自分に出会えることと思います。今回のボランティアがそのきっかけになれば、皆さんの人生にとつてとても価値ある経験になると思います。

社会情勢は不安なことが多く、元気の出ないニュースも多いですが、皆さんの頑張りにとても勇気づけられました。これからもどうか頑張ってくださいね。

ボランティアする心の成長を見る喜び

元日本教育新聞社取締役編集局長・

公益財団法人理想教育財団理事 矢吹 正徳

小学生から中・高校生までと、年齢層を広くとつて応募対象にしているのが、「ふれあいボランティア活動感想文」の大きな特徴の一つです。発達段階に応じたボランティア活動への向き合い方に触れることができます。

例えば、ボランティア活動にトライする心の発火点です。保護者などの身近な人たちに背中を押され活動に楽しみを見い出す子どもたち、学校の特色として取り組む活動の中に価値や良さを発見していく子どもたちがいます。日常生活のふとした瞬間にボランティアする心に灯のともる子どもたちもいます。

小学校の低学年で始める家庭でのお手伝い、身近な環境がボランティア的な行動に導き、小学校中学年以降になると理科や社会、総合的な学習の時間などの学習活動とボランティア活動がつながります。中・高校に進むと、ボランティア活動をしながら、地域や社会の課題、矛盾に気付き、よりよい活動を志します。

「ふれあいボランティア活動感想文」に触れると、年齢を重ねていく子どもたちの、こうしたボランティアする心の成長を見渡すことができ、それぞれの心の軌跡に立ち会うことができます。これは何よりの喜びです。

自分を信じ、仲間をつくりながら、あるいは仲間を見出し、活動を継続しながら、それぞれの「今」を楽しんでください。より広い世界が開けます。ボランティアする心にありがとう。

受賞作品

*児童・生徒の原文に従って作成しています。尚、一部改行を加えている作品があります。
(希望受賞者の顔写真を掲載しています。)

**【ふれあいボランティア活動大賞】
ひまわりに背中を押されて**

東京都小平市立小平第五中学校

一年 三森 結太



八月は朝から既に日差しが強い。夏休みだというのに僕は六時に起き支度をして公園へ向かう。眠いし暑い。何故このボランティアを引き受けてしまったのだろう……毎朝後悔しながら公園の花に水やりをする。

僕がこのボランティアを始めたきっかけは

「夏休みに公園の花の水やりをしてみない?」

という母の一言だった。僕は地域の高齢者がその公園に花を植え草取りをして地域の憩いの場となるように綺麗に維持していることを知っていた。休みの日に集まり作業している姿を何度も見ていたからだ。けれど僕は、「地域のために役立つ仕事をしたい」という思いよりも先に、この水やりには友達も一緒だということ楽しみと興味本位だけで引き受けた。

ホースで水を撒く。友達と水かけっこをしてびしょ濡れで帰宅することもあった。楽しかった。

水やりボランティアを始めて半月ほど経った時、僕は花が萎れていることに気がついた。前日まで綺麗に咲い

ていただろうその白い花は頭を下げ、元気がないことは花に興味がない僕でもすぐに分かった。昨日からこんな姿だったのか。他の花はどうだったのか。思い出そうとしても思い出せなかった。

僕は急に罪悪感に襲われた。僕が枯らしてしまったのかも知れない。帰りがけに「ありがとう。」と言われた。心が騒ついた。そう言われるだけのことをしていただけだろうか。

その日から僕の水やりに対する気持ちが変わった。水は行き届いているのか、元気のない花はないか観察するようになった。そして、花の命は短いからこそ、少しでも長く咲いて欲しい、その花の姿を見て癒される人がいるかもしれないと感じるようになった。

夏休みが終わり、二学期初日。

いつもの様に公園を通り過ぎた。ひまわりが太陽の様に輝いて見えた。そのひまわりを見て僕は「二学期も頑張るぞ」と思った。



【小学生賞】

ぼくと草の五分間

鹿児島県南九州市立中福良小学校

2年 西垂水 そうすけ



ぼくの学校では、朝の会がはじまるまでの間、うんどうをしたりボランテアをしたりしています。

「いつてきます。」

朝のほうそうより先に、ぼくは外に出ていきます。

「花と作文とあいさつ」

これは、ぼくの学校のキャッチフレーズです。だから、ぼくがやっているボランテアは学校の花だんの草とりです。雨の日がいはいは、毎朝五分間草をとっています。

春、みんなで花のなえをうえました。うえてからしばらくすると花のまわりにうえてないはずの草まで生えてきたので、少しずつぬいていきました。

夏、はっぱがどんどん大きくなってせも高くなってきました。でも、花のまわりの草まで同じようになってきました。それどころか、花よりも草のほうが多くなってきました。とつてもとつてもいつもニヨキニヨキと生えてくる草を、あせをだらだらかきながらぬいていきました。あつくてやりたくないなと思う日もあつたけど、休むと草がすぐにのびてしまうので、まけないようにがんばりました。草とぼくのたたかいは、夏の間ずつとつづきました。でも、五分間だけど、毎日つづけていると、

草もへつてきて、花だけになっていくのがわかります。運動会のころには、「わあ。」と思うぐらいきれいな花だんになっていました。それに、花たちも、草がないので、うれしそうに見えました。

秋のおわり。花だんの手入れをして、春にさく花をうえました。

そして今は冬。花は少しずつしか大きくなりません。でも、やっぱり草も生えてきました。夏とはちがってとても小さい草です。さむい中、ゆび先で小さい草をとるのはとてもたいへんです。ゆびがおるぐらいつめたくなるからです。こんどは、さむい中で、草とぼくのたたかいです。でも、春に「わあ。」と思うぐらいきれいな花だんで、花にもよろこんでほしいと思います。

毎朝五分だけど

鹿児島県南九州市立中福良小学校

2年 古田みのり



わたしの学校では、朝の活どうの時間に、うんどうやボランテア活どうをしたりしています。わたしは、一人ん車のれんしゅうもしたかったので、毎朝五分の「ちよボラ」をすることにしました。

晴れた日のボランテアは、花だんの草とり。朝のじ



ゆんぴがおわると、いそいで花だんにむかいます。一人で草をぬいていると、

「みのりちゃん、おはよう。何してるの。」

「草とりだよ。」

「わたしもいっしょにする。」
と、友だちもいっしょに草とりを

してくれれます。話をしながら草をぬいていると、あつという間に五分がすぎてしまいます。

気がついたら一りん車のれんしゅうの時間をわすれているときもありました。毎朝つづけていたら、一年生もまねをしていっしょに草とりをしてくれるようになりました。草とりはたいへんだなと思うこともあるけど、みんな草をとっているときは、一人のときよりも楽しくなります。みんなの顔もニコニコになります。

それに、たくさんあつた草も、もうおわりなのと思うぐらいすぐになくなるかんじです。おわつたあととはすっかりきれいになっていて、「もつとやろうかな。あしたもがんばろう。」という気もちが心の中にもくもく広がってきます。花だんもみんなもえ顔になって、わたしもうれしくなるからやってみようかと思って思っています。

雨の日だって同じです。ろう下をはわいていると、友だちがいっしょに手つだつてくれます。さいしよは、ほ



こりやごみでいっぱいだったろう下をピカピカにするのも楽しいですね。おわつたあとに、

「きれいだね。気もちいいね。」

と聞くと、もつとがんばろうってやる気が出てきます。みんながよろこんでくれると、うれしくなって、わたしの「やろう。」っていう気もちがふくらみます。ふしぎだな。毎朝五分だけのボランティアなのにな。

ど力をして川をきれいに

福岡県大牟田市立中友小学校

4年 成清 結菜



中友校区には、大牟田川という川があります。私たちは大牟田川についてくわしく調べてみました。

地いきの人に話を聞くと、昔の大牟田川は、とてもきれいな川でした。川のごれが原因で火事もおこつたそうです。そして私達は、大牟田川をもつときれいにするために、何をしたらいいのかを考えました。その結果、ごみ拾いに決まり、クラスみんなで、ごみ拾いに行きました。すると、私達が思っていたよりもたくさんのごみがありました。例えば、おかしのごみや、お酒の缶などです。これらから、大人のごみだけでなく子どものごみも捨ててあることに気づきました。子どものごみもたくさんあつたので、私たちが捨てていることと同じという感じでした。

そして私達は学校の児童みんなに、リーフレットやポスター、がんばりカードを配りました。するとごみが少しへったように感じました。私は休みの日にも、ごみ拾いをしたり、大牟田川をきれいにするためにたくさんごみをしました。



大牟田川の学習の前では、大牟田川のことなんか知りませんでした。でもこの学習をとおして、大牟田川について、いろいろな活動をする事ができました。大牟田川の活動をする、気持ちがスツキリしたり、ほかほかな気持ちになりました。

これからは、もっと大牟田川のことを知り、ごみ拾いなどの活動を取り組んでいきたいです。

良い気持ち・良い気分

千葉県栄町立安食小学校

5年 新垣 凜



「わあ。すごいねえ。」

ある日、私はほめられた。とても嬉しかった。なぜほめられたのかというと、落ち葉はきをしたからだ。庭の落ち葉や、家の前の森から飛んできたたくさんの落ち葉を集めて袋に入れた。森の落ち葉は道路の両わきに積み重なっていて、通る人はみんな道路の真ん中を歩いている。

少しでも集めて落ち葉をなくしたら通りやすくなると思っただけだった。いつもよりたくさん落ち葉を集めたので、おじいちゃんがほめてくれたのだ。

それから一週間後、いとこ達が来た時落ち葉はきをした。

小学二年生のそうちゃんが、

「何してるの。ぼくもやりたい。」

と言って来た。私は、

「いいよ。一緒にやろう。」

と言って、くま手をわたして集め方を教えた。向こうで遊んでいた弟のなおちゃんも走ってきて、

「なおもやる。」

と言うので、私とそうちゃんは、

「いいよ。」

と二人同時に答え、三人で落ち葉を集めた。まだ年中さんのなおちゃんも、なんだか楽しそうに落ち葉をかき集めていた。

風が冷たくなったので、おじいちゃんに呼ばれて家に入った。中は温かくて、おやつが用意されていた。おじいちゃん、私達が仲良く一生けん命に落ち葉を集めているのを見てとても嬉しかったと喜んでくれた。本当にここにこ嬉しそうにしている顔を見て、私も何とも言えない幸せな気分になった。



落ち葉はきは楽しくできたし、庭がきれいになった。道路はすつかりきれいとはいかないが、前よりは歩きやすくなった。だれかに喜んでもらえることで、自分も大きな喜びをもたらした。落ち葉はきは続けようと思う。

初めての高齢者訪問

福岡県大牟田市立駛馬小学校

5年 猿渡 結月



わたしたちは一人暮らし高齢者訪問という駛馬小学校の伝統行事のためにまず認知症についてくわしく知りました。一人暮らし高齢者訪問とは、一人で暮らしてらっしゃる高齢者の方とお話する行事です。その他に駛馬校区のおじいちゃん、おばあちゃんについて知り、高齢者の方との接し方について考えました。夏休み前には高齢者の方への色紙を作ったり、一から六年生から書いてもらった手紙をまとめました。最後に六年生が高齢者の方の役になって本番のように練習をしました。

「もう少し声を大きくして。」

「質問する内容を増やそう。」

とアドバイスをしてくださったのでアドバイス通りに練習しました。

今日は本番です。

「こんにちは」

わたしはとてもきんちようして声が少しふるえています

した。でも、笑顔を大切にして質問をしたり話をしたりしました。声も大きくなせし、話がとてももりあがりました。

「今日はありがとうございました。」

とわたしが言うのと、

「また来てね。」

と言ってくくださったのでとてもうれしかったです。

二けん目はとてもよるこんでくださったなみだを流してくださいました。

前までは高齢者の方の事を少しこわくて、元気がないイメージでした。しかし、実際にしてみると全然そんなことはなくて、びっくりしました。高齢者の方と話をしてみても笑顔だし、色々な事を知っているものしりなのでとてもすごいと思いました。六年生になったら今の四年生に教えるから六年生に教えてもらったことを生かしてしっかりアドバイスをサポートしたいです。

「さすが五年生」

福岡県大牟田市立駛馬小学校

5年 藤山 諦人



「さすが五年生。」

一人暮らし高齢者訪問のときに言ってくれた言葉です。

一人暮らし高齢者訪問とは、一人暮らしの高齢者のおた



くに訪問し、質問などお話しする駒馬小学校の伝統行事です。そして、色紙やさぎ防止のちらしなどを入れたプレゼントをわたすために準備をしました。そのときはめんどくさいなと思っていました。

本番になって、高齢者とお話しすると、初めて知ったことやその人の日常のこと（料理など）や昔のことを話してもらいました。例えば、おじいさんは、「運動会のおときは地区ごとにブロックリレーをしていましたよ。」

と言っていました。おばあさんもブロックリレーをしていたそうです。また、他にもきば戦や玉入れ、つな引きなど、さまざまに競技をしていたと言っていました。さらに、ボケ防止のために、折り紙をしていて、とくいだそです。料理は、

「たまご焼きや、オムレツなどのたまご料理が好きで、よく朝食とかにつくっているよ。」と言っていました。

勉強する前は高齢者は不自由で、よくおこっているイメージがあつたけど、一人暮らし高齢者訪問をして、高齢者は不自由な人もいるけど、やさしくていろいろな知識や経験があるということに気がつきました。活動したことで、最近では近所の高齢者と接する機会が増えました。これからも高齢者と接していきたいと思えます。



ボランティアガイドで気づいたこと

福岡県大牟田市立駒馬小学校

六年 荒尾 璃翔

大牟田の宝、日本の宝、世界の宝、それは宮原坑。ぼくたちは、この世界の宝、大牟田の宝を守っていくために、子どもボランティアガイドをやっています。

最初は、声も小さくて、宮原坑のよさを伝えられないぐらい練習不足でした。初のボランティアガイドをしたのは、他の市の六年生でした。きんちょうとして、ちゃんとやるのかなと頭の中は不安でいっぱいでした。終わってからふり返るとき、声の大きさや接し方など、たくさんの課題がありました。

でも、宮原坑のことについて、もっとたくさんの人に伝えたいという思いでキッズアカデミーや収録などもしました。最初はどう伝えればいいかわからなかったけど、世界の宝でもある宮原坑を伝えてがんばってみると、よく相手に伝わりました。

ぼくたちは、第二回目のボランティアをするときに声の大きさはもちろん、コミュニケーションをとることを意識しました。きんちょうをほぐし、接すると相手は笑



顔でうなずいてくれました。ぼくはそのとき、とてもほわっとして、きんちようがなくなりました。第二回目が終わるときに、その人が、

「どんな気持ちでガイドをやっているの。」

と聞きました。正直、答えることができませんでした。確かに、どんな気持ちでガイドをしているのか：：といふよく考えてない自分に気がつきました。宮原坑の本当のすごさをみんなに伝えるためにガイドをやってきたのに：。そのためには、まずぼくたちが楽しくないと相手も楽しくありません。ぼくたちはこういう気持ちでボランティアガイドをやって伝えていくんだと思います。

次こそ、どんな気持ちでやっているのかを聞かれたらすぐ答える自信があります。ガイドは、世界遺産があるところしか出来ないで大牟田ならではの伝統です。この伝統をこれからも受けつぎ未来に世界の宝を残したいです。

【中学生賞】 募金活動

東京都小平市立小平第五中学校

1年 大井 みのり

私が、行ったボランティアは、募金活動です。募金活動とは、汚れた水を安全な水に変える、栄養不良を改善する栄養治療袋、感染予防ワクチン、文房具セットなどのものを買うための資金を集める活動です。この活動によって、世界中の困っている子ども達を助けることができます。

私は、この活動を行って、たくさんの方が協力することによって多くの子ども達を助けることができて、すごくいいことだなと思いました。なぜなら、一人一人が少ない金額でも、多くの人が募金することで、多くのものを買え、多くの子ども達を助け、よりよい生活を送ることができるからです。

また、日本は、すごく恵まれている国なんだと思いました。世界には、生きるために汚い水を飲み、水をくむために学校にも行けずに、最悪の場合亡くなってしまふこともあるのに、日本では、蛇口をひねるだけで綺麗な水が飲め、学校にも行け、当たり前のように幸せな生活をしているんだと感じました。



この活動をしてから、どんな物でも大切にできるようになりました。私は、この活動をするまでは、水や文房具は、いくらでもあるもので、いつでも買えるものだと考えていました。ただ、この活動をしてから、世界では綺麗な水を飲めない人もいるので、当たり前ものを大切にしようという考えに変わりました。

これから、誰かのためになる、他のボランティアもやってみようと思います。

地域のひととの協力

東京都小平市立小平第五中学校

1年 川越 葵生

冬休みが始まって、外もだいぶ寒くなりましたが、例年通り雪は降らないと思っていました。ですが一月六日、朝起きるとなんと雪が降っていました。その日は「キレイだなあ」とながめていました。

ですが次の日家の前の道路一面に氷が張っていました。自分はその日、習い事の関係で自転車で移動していたのですが路面の氷のせいで転んでしまったのです。自分はスピードも出しておらずヘルメットも着用していたので少しのけがで済みましたが、

自分以外に転ぶ人が増えないように自分の家の前だ



けでもという考えで氷を溶かそうとしました。家族が全員入り終わったお風呂を再利用したもので氷を溶かしてきました。しばらくすると近所の人も家の前に出てきて、自分が作業しているのを見ると、続々と近所の人々が協力してくれました。

この事を通して、ふだんより「協力」と言うものに対しての考え方が変わりました。これからも色々な事で、色々な人と協力していきたいです。

ボランティアは笑顔をつくる魔法！

東京都小平市立小平第五中学校

1年 酒井 心実



私は、この一年間で色々な形でボランティアに参加することができました。大きく分けて二つ。そして、そこから自分の人生への糧になることを学ぶことができました。一つ目は、募金です。緑の羽募金やユニセフ募金の募金活動に参加しました。そこから学んだと思うことは、今ここにいる自分がどれだけ幸せかということです。世界には、学校に行けなかったり、真面目な食事ができなかったり、様々な理由から本当の自分の夢を叶えることの難しい現状に立っている人がいるということに気付きました。それを知ると、夢を叶えるために嫌いになるほど勉強ができる自分がどれだけ恵まれているのか。そして私たちが、本当の自分の夢を叶えるための後押しを募金を

通してすることがいかに大切かと自分の気持ちに変化を
つけることができました。

二つ目は、落ち葉はきボランティアです。学校の落ち
葉を拾うという活動に友達と参加しました。そこから感
じたことは、周りがきれいになるとみんなの気持ちまで
も明るくなっていくなということです。自分の意志で参
加したボランティアを怒りながらやる人もいないし、た
くさんの人とふれあえば、自然と心が軽くなる。そうい
ったふれあいボランティアの良さにも気付くことができ
ました。

ふれあいボランティアは、世界のこ
とに目を向けるチャンスにもなり、自
分の身近な人の気持ちを明るくできる
チャンスにもなる。そんな素晴らしさ
をたくさんの人に実感してもらい、笑
顔しかない世界を実現してみたいです。



落ち葉

東京都小平市立小平第五中学校

1年 菅野 結人

僕は先日、落ち葉はきをした。普段あまり人が通らな
い道だったが、落ち葉がたまっていたので、ほうきでは
いた。なぜ落ち葉はきをしようと思ったのか、それは少
し前に玉川上水の横の道を通ったときに感じたことがき

っかけだ。

ある日玉川上水沿いのせ
まい道路を自転車であつて
いた。通ったことがある人
なら分かると思うが、あの
道は自転車と車がすれ違っ
ただけでもかなり神経を使うような道路だ。窮屈さを感じ
つつ走っていると、急に道が開けたのだ。いや、開けた
ように感じたのだ。なぜだろうと思いついて見たらそこ
には落ち葉をはいている一人の男性がいたのだ。そのと
き僕は落ち葉がないだけでこんなにも快適に走れるのか
と感銘を受けた。その男性が自転車の人に快適に走って
もらうために落ち葉をはいていたのかは分からないが、
少なくとも僕以上の人には影響を与えていることは確か
だ。僕は、そんな不特定多数の人へ影響を与えることが
素敵だなと思った。「自分もそんなことをしたい！」そう
思ったのが今回落ち葉はきをした理由だ。



実際に落ち葉をはいてみて、率直にごみ一つない道っ
てきれいだなと思った。十五分程しか作業はしていない
けれど、達成感に満ち溢れていた。あの日の僕みたいに
この落ち葉が一枚もない道を見て何かを感じてほしいな
と思った。今回落ち葉はきをして、ボランティアって
いうのは自分のためではなく人のためにすることなんだっ
て改めて気づかされた。

ボランティアパスポートを通して

山形県山形市立第一中学校

2年 羽角 彩香



私は、今年様々なボランティアに参加しました。後期からは事務局員になり、参加するだけでなく、準備や片付けも行うようになりました。私が参加したのは、主に学校で行われているボランティアでした。

まずは、エコキャップ回収です。私の学校では、年に何度も行われています。私は後期から事務局員として回収をする側になりました。昇降口に立って回収していると、参加して



くれている人がたくさんいることに気がつきました。また、たくさん持ってきている人や、少し持ってきている人など様々な人がいました。でも、私は持つてくる量ではなく、持つてくるということがすごいと思いました。

次に、赤い羽根共同募金です。この活動も私は回収を行いました。この活動でも、たくさんの方が参加していました。また、参加率は学年が高い方が参加率も高いという結果になりました。私は長く続けている方が参加しようという気持ちが強いのだろうと思いました。このいい先輩の姿を受け継ぎ、そしてつなげていきたいと思いました。

そして、2つに共通していえると思うことは、少しでも

もいいから参加することが大切だということでした。たくさんの方で協力した方がより多く集まります。私は、今年気づけたことや目標がたくさんできました。このことを来年の学校に生かせるように活動したいと思いました。また、目に見えるボランティアだけでなく、町にあふれている小さなボランティアを自ら見つけ行っていきたいと思いました。

【高校生賞】 いがらし先生

東京都立稔ヶ丘高等学校

2年 五十嵐 匠海

僕は高校二年次の際、保育士のボランティアを行った。保育士というと僕は子供達の世話をするというイメージを持つていた。だが二日間を通して変わっていく。

まず一日目では赤子と二歳児の世話をした。赤子の世話は、一緒に歩いた。二歳児では水遊びをした。その後はおままごとと絵本読みをした。

おままごとでは、子供達が、

「いがらし先生ハンバーグ食べて」

など子供達から、様々な料理を出された。腹は満たされませんが、子供達が可愛く心は満たされた。

絵本読みでは、

「いがらし先生これ読んで」

など子供達から、沢山の本を渡された。どの本の内容も考えさせられた。いつも漫画を読んでいる僕だがとても新鮮な気持ちになった。

絵本読みの後は給食の時間だ。

給食の時に二人の子供が苦手な食材を食べず残してしまった。先生があげても食べなかつたので、

先生が僕があげる事を提案した。そこであげてみたら食べたので嬉しかった。先生も嬉しがっていた。二日目では五歳児の世話は、ポケモンの名前当てやポケモンの絵を描いた。ポケモンの名前当てはともむずかしかった。

最後に保育士のボランティアを通して、感じた事は、歳によって歩き方が異なっていました。そして肉付きもちがって見た目でわかるちががありました。次に言動もちがっていました。二歳になると、言葉にはまだ慣れないのに対して、五歳になると言葉には慣れて僕も知らない事を教えてくれたりと成長をみれました。

僕は前に子供達を世話をすると思っていました。がそれはちがいが、子供達を安心して、安全に成長できるようにするのが保育士の仕事だと思いました。



ボランティアと関わることで

東京都立椏ヶ丘高等学校

3年 関口 鈴

私の父は、幼いころに亡くなった為、母が私と兄を一人で育ててきてくれました。私や兄は母や親戚たちの支えのおかげで、何一つ不自由を感じることもなく過ごすことができていました。しかし、学校での生活や道徳の授業では、親や家族について考える機会が多く、自分にとっては一番苦手な科目でした。またその中で、他の人たちと自分は違う、という疎外感やよく分からない不安を感じることも多かったです。

もう一つ、新たな問題に直面したのは、高校二年生の終わりの頃、丁度受験について考え出す頃でした。私は大学進学を考えていたため、多大な進学費用に悩みました。その時、一人親家庭を対象にした、奨学金の支援をしている団体を知り、すぐに奨学金の申し込み、面接やアンケートなどを行いました。奨学金を受け取る条件として、ボランティアがあったため、私は兄と参加しました。

ボランティアの内容は、一人親家庭に向けた募金活動でした。そこには沢山の歳の近い学生たちが参加しており、とても驚いたことを覚えています。少し話し機会があった為近くにいた女性と話し



ていたところ、同じ母子家庭であり、進学に悩んでいたことで、とても話が合いました。またその他にも自分と同じ状況が、頑張っている人が、こんなにいるんだと安心し、疎外感や不安が少し軽くなった気がしました。今まで、あまり関わることのなかったボランティア活動ですが、意外なところで自分の助けになったり自信につながるということが分かりました。今後もボランティアに携わっていきたいです。

人の話を聴く大切さ／笑顔が一番

東京都立稔ヶ丘高等学校

3年 玉上 菜奈



私はボランティア活動として、こども食堂に中学校三年から通い続けています。そこで私が学んだことは、人の話を聴く大切さです。

最初はあまりボランティアに興味がありませんでしたが、偶然「こども食堂開催中」という看板が目にとまり入ったのがきっかけでした。入ってみるとこどもだけでなく、お年寄りもいて、とても温かくむかえられてくれたことは今でもはっきり覚えていています。

そしてその人達はそれぞれ悩みを



抱えていることを知りました。その時に、スクールカウンセラーの先生が親身になり、話を聴いてくれたことで、安心し、泣き出してしまったことがあったのを思い出し、私も力になりたいと思うようになりました。その後は積極的に人の話を聴き、共感すること、相手の意見を否定せず、ただ聴くことに専念しました。話していくときまつて、最後に「ありがとう」や「とても楽になった」と言つて笑顔になってくれるのを見て、すごく心が温かくなったことを覚えていきます。

その当時、私も人間関係でとても悩んでいて、先の見えない、恐怖や不安が常にありました。ですが、それでもこども食堂のみんなは本当の家族のように接してくれ、自分も悩んでいるのに、他人のために努力できる素晴らしい人達と接して行く中で、悩むことをやめ、気づいたら、毎日笑つて過ごせるようになっていました。お互い助け合い、支え、乗り越えることがボランティアだとは思ふようになりました。

またこの経験から私は、人の話を聴くだけで笑顔にすることができ、救うことができると学びました。私は今、スクールカウンセラーになるために勉強に励んでいます。生徒達を一人でも多く笑顔にするだけでなく、まわりの人を温めることのできる人を目指して、これからも頑張つて行きたいと思いました。

令和3年度ふれあいボランティアパスポート参加校・団体リスト(令和4年3月現在)
 学校84校・6団体
 参加児童・生徒数25,879人

1	青森県	弘前市岩木児童センター	48		小郡市立味坂小学校	
2	岩手県	盛岡市立月が丘小学校	49		小郡市立小郡小学校	
3		盛岡市立厨川中学校	50		小郡市立御原小学校	
4		鹿角市立花輪小学校	51		小郡市立立石小学校	
5		鹿角市立美平小学校	52		小郡市立三国小学校	
6	秋田県 鹿角市教育委員会	鹿角市立十和田小学校	53		小郡市立大原小学校	
7		鹿角市立大湯小学校	54		小郡市立東野小学校	
8		鹿角市立尾去沢小学校	55		小郡市立のぞみが丘小学校	
9		鹿角市立八幡平小学校	56		小郡市立宝城中学校	
10		鹿角市立花輪中学校	57		小郡市立大原中学校	
11		鹿角市立十和田中学校	58		小郡市立立石中学校	
12		鹿角市立尾去沢中学校	59		小郡市立小郡中学校	
13		鹿角市立八幡平中学校	60		小郡市立三国中学校	
14		山形県 山形県青年の家	山形市立第一中学校	61	福岡県	福岡県立三井高等学校(福祉教養コース)
15			山形県最上郡鮭川村立鮭川小学校	62		
16	山形県最上郡鮭川村立鮭川中学校		63	大牟田市	大牟田市立みなと小学校	
17	青少年地域ボランティアサークル「SAKEKKO」		64			大牟田市立天領小学校
18	山形県新庄市立新庄中学校		65			大牟田市立駿馬小学校
19	山形県舟形町立舟形中学校		66			大牟田市立大牟田中央小学校
20	青少年地域ボランティアサークル「ふなっ子」		67			大牟田市立大正小学校
21	山形県立山辺高等学校		68			大牟田市立中友小学校
22	山形県立寒河江工業高等学校		69			大牟田市立明治小学校
23	山形県立東桜学館高等学校		70			大牟田市立白川小学校
24	山形県立東桜学館中学校	71			大牟田市立高取小学校	
25	つくば市立荃崎第一小学校	72			大牟田市立羽山台小学校	
26	茨城県	FA 春日部市立豊春中学校	73		大牟田市立銀水小学校	
27	千葉県 栄社協栄町教育会	栄町立安食小学校	74		大牟田市立上内小学校	
28		栄町立布織小学校	75	FA	大牟田市立吉野小学校	
29		栄町立安食台小学校	76		大牟田市立倉永小学校	
30		栄町立竜角寺台小学校	77		大牟田市立手織小学校	
31		栄町立栄中学校	78		筑紫野市立二日市小学校	
32		品川区立小中一貫校荏原平塚学園	79	大分県	大分県立佐伯豊南高等学校	
33		FA 品川区立品川学園	80	佐賀県 神埼市教育委員会	神埼市立神埼小学校	
34		目黒区立鷹番小学校	81			神埼市立西郷小学校
35		板橋区立舟渡小学校	82			神埼市立青堰小学校
36		板橋区ジュニアリーダ一会	83		FA	神埼市立千代田西部小学校
37		練馬区立大泉第六小学校	84			神埼市立千代田中部小学校
38		小平市立小平第五小学校	85			神埼市立千代田東部小学校
39		小平市立小平第十四小学校	86			神埼市立仁比山小学校
40		小平市立学園東小学校	87			神埼市立神埼中学校
41		小平市立小平第五中学校	88			神埼市立青堰中学校
42		小平市立花小金井南中学校	89			神埼市立千代田中学校
43		FA 武蔵村山市立小中一貫校村山学園	90	鹿児島県	南九州市立中福良小学校	
44		FA 都立六本木高等学校				
45		FB 東京都立麹ヶ丘高等学校				
46		東京都立しいの木特別支援学校				
47		株)アヴァンティ				

○:ふれあいボランティア/レポートフレンズ(FA/FB)
 (FA) 教育委員会や学校・団体が作成したオリジナルふれあいボランティアパスポートを使用し参加しています。
 (FB) ふれあいボランティアパスポート類を使用せず、申込時の参加人数を寄付団体数で分けて、寄付のみに参加しています。
 ◆教育委員会や学校と提携する団体
 習熟教育委員会の全小中学校を取りまとめ、参加いただいています。

令和3年度ふれあいボランティア活動感想文集

令和4年3月発行

認定NPO法人さわやか青少年センター

〒167-0043 東京都杉並区天沼3-7-3

荻窪法人会館3階

TEL : 03-6279-9236 FAX : 03-6279-9256

URL : <http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : info@ssc-npo.or.jp